

## 英文校閲の実際 第6話

### ——定冠詞 “The” の使い方は難しい

前回(第5話)の文例9で、日本人にとって定冠詞 “the” の使い方が難しいことを述べました。今回の文例も、“the” の使い方が問題になります。“the” の必要性は、数の扱いにも関係します。これらに注意しながら、次の文例11の校閲前原文を読んでみてください。

文例11: Analytical Report, Objective より

(校閲前原文): ① The purpose of this study was to determine the concentration of A-123456 [ABC-123 M-II (2S, 8S)] and A-123457 [ABC-123 M-II (2R, 8S)] in plasma, ② so as to evaluate the exposure to A-123456 and A-123457 in the 4-week intravenous toxicity study of ABC-123 metabolite, M-II (2S, 8S) (A-123456) in monkeys.

(和文): ①本試験の目的は、A-123456 [ABC-123 の代謝物 M-II (2S, 8S)] 及び A-123457 [ABC-123 M-II (2R, 8S)]の血漿中濃度を測定することであったが、②これは、ABC-123 の代謝物 A-123456 [ABC-123 の代謝物 M-II (2S, 8S)] のサルによる4週間静脈内投与毒性試験におけるA-123456 及び A-123457 の曝露を評価するためであった。

(校閲後): ① The purpose of this study was to determine concentrations of A-123456 [ABC-123 M-II (2S, 8S)] and A-123457 [ABC-123 M-II (2R, 8S)] in plasma, ② so as to evaluate exposure to A-123456 and A-123457 in a 4-week intravenous toxicity study of the ABC-123 metabolite, M-II (2S, 8S) (A-123456) in monkeys.

(解説)長い代謝物名が連続していて、一見難解な文章ですが、要するに、ABC-123 の代謝物 M-II の光学異性体の1種である A-123456 (2S体) のサル4週間静脈内投与毒性試験において、(2S, 8S) 体(A-123456)から(2R, 8S)体(A-123457)への光学異性体の代謝変換を明らかにするため、A-123456 と A-123457 の血漿中濃度を測定した分析報告書の一部です。

まず、原文①の1行目の “the concentration of A-123456 and A-123457” の “the” が削除され、“concentrations” と、複数形に修正されました。複数形が正しい理由は、測定対象の代謝物が2種類あり、血漿中濃度も複数あるからです。そして、複数の名詞には通常 “the” は不要です。

次に、②の “the exposure to A-123456 and A-123457” の “the” も削除されました。この構文は上記①の “the concentration of A-123456 and A-123457” とよく似ているので、“the” が削除された理由も、①と同じと思われるかもしれませんが、①と②では “the” の削除の理由が異なります。校閲後の①では “concentrations” と複数形であるのに対し、②の “exposure” は単数形であることに注目してください。②の “exposure” は不可算名詞用法なので、測定対象物が複数でも “exposure” は複数形をとらないし、“the” も不要なのです。

ところで、測定対象物質が A と B の2種ある場合の曝露を、“exposures to A and B” とすること、すなわち “exposure” を加算名詞扱いすることは、文法的に誤りなのでしょうか？

この疑問を解くために、測定物質が複数の場合の、“exposure” の可算名詞用法と不可算名詞用法の比率を、Google USA で調べてみました。これは以下の2つの文節を「ワイルドカード検索<sup>1)</sup>」してみれば分かります：

(可算名詞用法) “exposures to \* and \* in rats” のヒット数 6,130,000

(不可算名詞用法) “exposure to \* and \* in rats” のヒット数 77,900,000

以上の検索結果から、「複数の物質への曝露」という場合、可算名詞用法の “exposures to A and B” よりも、不可算名詞用法の “exposure to A and B” の方が、12 倍以上もヒット数が多いことが分かりました。ただし、“exposures to PhE and PhAA in rats” や、“exposures to PFOA and PFOS in rats” などの表題の論文が実際にヒットすることから、少数派とはいえ、可算名詞用法も誤りではないことが分かりました。

次に、②の “the 4-week intravenous toxicity study” の “the” が不定冠詞 “a” に修正されました。4 週間投与毒性試験は、その試験を担当する SD にとっては 1 回限りの特別な試験であり、“the” を付けたくなる気持ちはよく分かりますが、客観的に見れば、4 週間投与毒性試験は資源さえあれば何回でもやり直せる性質のものであり、不定冠詞の “a” がふさわしいのです。

次に、②の最後の “ABC-123 metabolite, M-II (2S, 8S) (A-123456)” の前に、“the” が追加されました。追加の理由は、“ABC-123 metabolite M-II” には A-123456 と A-123457 があり、そのうちの A-123456 であるという限定があり、しかもこの A-123456 は、それまでに 2 度も登場しているので、「前出の」の意味もあって、“the” を付けるべきでした。

次の文例 12 も、“the” が問題です。どこに “the” を追加すべきか、どこ “the” を省くべきかを考えながら校閲前原文を読んでみてください。

文例 12 One-Week Dietary Range-Finding Toxicity Study of ABC-123 in Mice, Results and Discussion より (1 / 3)

(校閲前原文) ① No deaths occurred in any group. ② In clinical observations, colored stool (gray) and decreased feces were observed in all animals in the 5 % group. ③ At day 7, body weights in the male groups were decreased 3.8 and 7.7 % compared to the control group, for the 0.5 and 5 % groups, respectively. ④ Body weight gains were decreased 2.6 and 6.6 % in these groups, respectively.

(和文) : ①どの群にも死亡動物はなかった。②一般状態観察において、色付き(灰色)の糞便と、糞便量の減少が5%群の全例に認められた。③第7日目に0.5及び5%群の雄の体重が対象群と比較してそれぞれ3.8及び7.7%減少した。④これらの群では、体重増加がそれぞれ2.6及び6.6%減少した。

(校閲後) : ① No deaths occurred in any group. ② In the clinical observations, colored stools (gray) and decreased feces were observed in all animals in the 5 % group. ③ At day 7, the body weights for the male groups were decreased 3.8 and 7.7 %, as compared to the control group, for the 0.5 and 5 % groups, respectively. ④ Body weight gains were decreased 2.6 and 6.6 % respectively in these groups.

(解説) ① 問題なし。②では、“In clinical observations,” の “clinical observations” の前に “the” が追加され “In the clinical observations,” に修正されました。“the” が追加の理由は、“clinical observations” に、「特定の投薬群の」という限定があるためと考えられます。しかし、複数形の名詞には、“the” は必ずしも必要ないはずで、そこで、SD による原文の “In

clinical observations,” が欧米の世間で通用するかどうかを調べてみました。これは以下の 2 つの文節を Google USA でフレーズ検索<sup>1)</sup>してみれば分かります：

(SD による原文)：“In clinical observations,” のヒット数： 680,000

(校閲者の修正文)：“In the clinical observations,” のヒット数：1,250,000

以上の検索結果から、“the” を付ける人が約 2 倍の多数派であり、校閲者も多数派であったことが分かりました。ただし、SD による原文も間違いではなかったことが分かりました。

次に、“colored stool” (色のついた糞便) の “Stool” が複数形の “Stools” に修正されています。“stool” は、もともと「簡単な椅子、腰掛」という意味ですが、これが転じて「腰掛け式の便器」、「便通」あるいは「糞便」を遠まわしに指す言葉になりました。“stool” が腰掛けの意味なら単数形もありえますが、糞便の意味のときは “feces” と同様に、常に複数形です。

次に、③の “body weights” の前に “the” が追加されました。複数形の “body weights” には必ずしも “the” は必要ないはずですが、その後に “for the male groups” という限定があるために “the” が追加されたと考えられます。

次に、④の原文で文の最後に置かれていた “respectively” が、数字の直後に修正されました。

文例 13 One-Week Dietary Range-Finding Toxicity Study of ABC-123 in Mice, Results and Discussion より (2/3)

(校閲前原文)：⑤ Body weight and body weight gain in females in the 5 % group were decreased 5.1 and 6.8 % when compared to the control group, respectively.

⑥ Food consumption in males in the 0.5 % group and in both sexes in the 5 % group were decreased 6.6, 16.4 and 14.8 % as compared to the control group, respectively.

(和文)：⑤ 5 %群の雌の体重及び体重増加は、対照群と比較してそれぞれ 5.1 及び 6.8 %減少した。⑥ 摂餌量は、0.5 %群の雄と 5 %群の雄雌で対照群と比較して、それぞれ 6.6, 16.4 及び 14.8 %減少した。

(校閲後)：⑤ Body weights and body weight gains for females in the 5 % group were decreased 5.1 and 6.8 % respectively when compared to the control group. ⑥ Food consumption in males in the 0.5 % group and in both sexes in the 5 % group were decreased 6.6, 16.4 and 14.8 % respectively as compared to the control group.

(解説) ⑤の原文では、主語の “Body weight” と “body weight gain” が共に単数形でしたが、これは日本人が単数形でものを考えており、それをそのまま英語にしてしまった、典型的「日本人の英語」的誤りです。体重や体重増加量は雌雄別に算出されるので、複数の値であり、複数形の “Body weights and body weight gains” にする必要があります。また、⑤と⑥の “respectively” も、④の場合と同様に、数値のすぐ後に置きます。

(馬屋原 宏)

#### 引用文献

- 1) 馬屋原 宏：『誰でも書ける英文報告書・英語論文』、薬事日報社 (2008)